

2002年9月19日

誕生から17年を経て、この秋、ボンバーマンに新たな歴史が始まる

"ボンバーマン ルネッサンス" 「東京ゲームショウ2002」より始動

「ボンバーマンジェッターズ」ラッピングバス全国巡回



TVアニメ・ゲーム・キャラクター商品・イベント・雑誌などを一体化し強
力に展開

株式会社ハドソン（社長/工藤 浩）は、発売から17年を迎えた当社の看板ゲーム「ボンバーマン」の世界観及びキャラクターを一新、再構築を図り、「ボンバーマン ルネッサンス」をキーワードに「ボンバーマン」のブランドイメージ強化を進めます。

"ボンバーマン ルネッサンス"は、来月10月2日(水)より1年間の予定で放送される、「ボンバーマン」初のTVアニメ「ボンバーマンジェッターズ」（毎週水曜日18:30~19:00 テレビ東京系6局、BSジャパン含む）を主軸に、ゲームソフト、キャラクター商品、イベント、雑誌など、様々なメディア・企業を交えて複合的に、長期的に展開されるものです。

ハドソンは、この新TVアニメ番組に連動したゲームソフトをマルチプラットフォームで展開していきます。10月24日（木）発売予定のゲームボーイアドバンス(GBA)用「ボンバーマンジェッターズ 伝説のボンバーマン」を皮切りに、年末にはプレイステーション2（PS2）用とゲームキューブ（GC）用ゲームを2作同時発売する予定です。また10月下旬より、株式会社タカラから玩具・アパレル等が、コナミ株式会社からはカードゲームが順次発売される予定です。アニメ番組スタートに先立ち、子どもたちに人気のコミック誌「月刊コロコロコミック」（小学

館)では、アニメをモチーフにした新ギャグ漫画の連載が9月に発売した最新号より開始されており、着々と"ボンバーマン ルネッサンス"が進行中です。

「東京ゲームショウ2002」から本格始動。ボンバーマンラッピングバス全国巡回！

今週末、9月20日(金)~22日(日)に開催される「東京ゲームショウ(TGS)2002」(主催:CESA、会場:幕張メッセ)に、ハドソンは「ボンバーマンジェッターズ 伝説のボンバーマン」(GBA用)と「ボンバーマンジェッターズ」(PS2用)を出展、この会場から"ボンバーマン ルネッサンス"が本格始動します。

TGSの会期中会場、幕張メッセ周辺を「ボンバーマンジェッターズ」のイラストを全面塗装した大型ラッピングバスが巡回し、「ジェッターズ」のTVアニメ化やゲームの発売を強力にアピール。このラッピングバスは、TGS終了後、TVアニメの主人公「シロボン」をモチーフにしたコスチュームを着た女性3人組の「サンプリング隊」を乗せて、東京をはじめ大阪、名古屋、福岡など全国を巡回、告知活動を展開します。

業界初！ TVアニメとゲームのストーリーが完全リンク

新TVアニメ番組の第1話と第2話の間は約半年の時間経過があり、その間のストーリーを補完するものがGBA用ゲームソフト「ボンバーマンジェッターズ 伝説のボンバーマン」です。TVアニメとゲームソフトが、このような形で完全リンクするのは業界初の試みです。

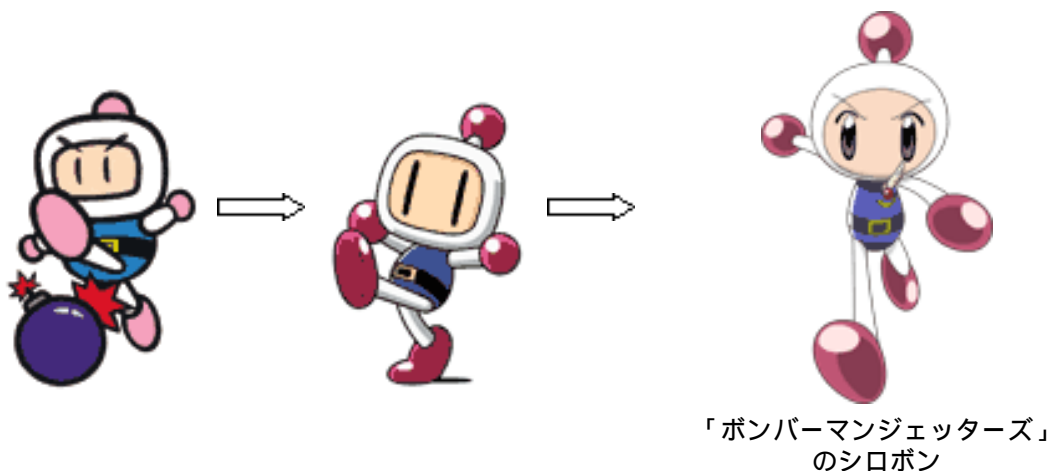
任天堂のファミリーコンピュータ発売から19年経過した現在、かつてコアユーザー層を形成していた低年齢層のゲーム離れが指摘されています。今回の「ボンバーマンジェッターズ」のTVアニメ化により、「ボンバーマン」の認知度を高め、ファミリー層も含めて新規ユーザーを強力に誘引、成熟したゲーム市場でさらなる低年齢層の掘り起こしを狙います。

「ボンバーマン」が伝説を越える

1985年に発売されたファミリーコンピュータ用ゲームソフト「ボンバーマン」は、当時100万本に迫る大ヒットを記録。「ボム」を設置しその爆風で敵を吹き飛ばすという、単純明快なゲームシステムと戦略性の高さが高く評価されました。その後「ボンバーマン」の代名詞ともなった多人数対戦プレイの楽しさを提唱、ほとんどの家庭用ゲーム機で40タイトル以上発売されるシリーズに成長し、累計で1000万本以上の人気シリーズとなりました。

初代「ボンバーマン」が発売された当時、このゲームに熱中し、ハドソン主催の「夏休み全国キャラバン」に足を運んだ子どもたちは、17年を経て25～32歳となり、すでに父親・母親世代になっています。

今回の「ジェッターズ」で初めてボンバーマンを知る子どもたちの両親は、かつて自分たちが熱中した「ボンバーマン」に再会することになります。親子二代で遊べる玩具はこれまでもありましたが、TVゲームの世界も初めてそれが実現されます。こうした形で「親と子の遊びがリンクする」とき、ボンバーマンは「伝説」を越えて、「ルネッサンス」の名にふさわしいゲームとして新たに誕生します。



「ボンバーマンジェッターズ」
のシロボン

ボンバーマンのキャラクターデザインも時代とともに変わってきました。
©HUDSON SOFT ©HUDSON/小学館・テレビ東京・NAS